

2008. 11. 28 第44号



地域づくりコミュニケーション
— 農村振興メールマガジン —

農林水産省農村振興局



◆◆ 目次 ◆◆

【 農村振興支援情報 】

■ 美しい農村を守り育むために

◇中山間ふるさと・水と土保全対策事業（略称「ふる水基金」）及び中山間ふるさと・水と土保全推進事業（略称「棚田基金」）のより一層の活用に向けて

◇農地・水・環境保全向上対策の取組

「真冬にひまわり・コスモス満開」農地を活用した景観保全
～沖縄県国頭郡金武町『金武町農村振興会』～

◇農村コミュニティ活性化の取組

～宮城県東松島市宮戸地区『奥松島体験ネットワーク』～

■ 地域の実態に応じた多様な取組

◇泥炭農地環境の保全から農業農村の振興と地域環境の保全を考える
～北海道『NPO法人篠津泥炭農地環境保全の会』～

◇農家とお米屋さんが一体となって取り組むむらづくり

～秋田県仙北市『田沢湖牛銘柄確立推進組合(モートピア神代)』～

■ 報告・お知らせ

◇「オーライ！ニッポンにいがたシンポジウム」を開催（11／9）
第6回オーライ！ニッポン大賞の募集（12／5まで）

◇「農山漁村の郷土料理百選」選定記念シンポジウムを開催（11／15）

◇平成20年度「田園自然再生活動コンクール」の各賞が決定しました
(11/17)

◇【研修生募集中！】地域産業マネージャー育成研修（農林水産省補助事業）

■ 美しい農村を守り育むために

◇中山間ふるさと・水と土保全対策事業（略称「ふる水基金」）及び中山間ふるさと・水と土保全推進事業（略称「棚田基金」）のより一層の活用に向けて

棚田地域を含む中山間地域の農地や農業用施設は、わが国の食料生産としての場だけでなく、洪水防止機能や地下水かん養等の多面的機能を有しています。

しかしながら、過疎化・高齢化が進む中でこれらの維持管理水準が低下しつつあり、これまで以上に都市住民の参加も含めた地域住民による積極的な保全活動が重要となっています。

このため、農林水産省では、平成5年度に「ふる水基金」、平成10年度に「棚田基金」を各道府県に設置し、各道府県ではこれらの基金を活用し、地域

住民による農地や農業用施設の保全活動がより一層促進されるよう下記のような事業を行っています。

これらの事業が、皆様の地域の取組に広く生かされるよう、地域のニーズを積極的に道府県にお寄せいただければと思います。

事業の詳細については、各道府県の農林水産部局にお問い合わせ下さい。

【各基金の活動事例】

<ふる水基金>

中山間地域の住民組織（土地改良区、町内会、営農組織、JA、市町村等）が行う以下の活動を支援。

1. 調査研究事業

耕作放棄地や農業用施設の老朽化等の現況調査、生き物調査、保全マップ

の作成等（アドバイザーへの報酬金、資材費、機械の賃借料、テキスト作成・印刷費への補助等）。

2. 研修事業

地域づくりセミナーやシンポジウム、鳥獣被害対策研修会の開催等（講師への報酬金、会場借料への補助等）。

3. 推進事業

水路や周辺地域の清掃、花の植栽等の活動や都市住民の参加を呼びかけるパンフレットの作成、写真コンクールの開催等（苗代、資材費、機械の賃借料、パンフレット作成・印刷費、写真現像費への補助等）。

< 棚田基金 >

棚田地域の住民組織が行う以下の活動を支援。

1. 保全ネットワーク推進事業

都市住民の棚田保全活動への参加や交流の推進を図るためのパンフレットの作成、セミナー等の開催、写真展の開催等（パンフレットの作成・印刷費、会場借料費への補助等）。

2. 保全活動推進事業

棚田の積極的な保全を推進するための都市住民の棚田見学会や稲刈り体験ツアーの開催、棚田オーナー制度の実施等についての支援（ツアー交通費、資材費、資料作成・印刷費、看板制作費への補助等）。

3. 保全活動支援事業

荒廃した棚田の復活や伝統的な石積み技術の伝承、草刈などの棚田周辺環境の保全への支援（重機賃借料、資材費、電気牧柵購入費等への補助等）。

（中山間地域振興課事業推進班）

◇ 農地・水・環境保全向上対策の取組

「真冬にひまわり・コスモス満開」農地を活用した景観保全

～ 沖縄県国頭郡金武町『金武町農村振興会』～

金武町は、沖縄本島のほぼ中央部に位置し、太平洋に面した風光明媚な町で

す。

金武町の農業は、米軍基地の建設で多くの優良農地が接収され、一時期大きく減退しました。しかし、今日では土地改良など農業の基盤整備も進み、若年農業従業者による熱帯果実や花卉などの栽培が盛んに行われるようになり、専業農家も増え活気を取り戻しつつあります。

こうした中、金武町農村振興会は、平成19年度から町内全域の330haの農地で「農地・水・環境保全向上対策」に取り組んでいます。金武町農村振興会は、5集落（中川区、並里区、金武区、伊芸区、屋嘉区）の地域において、土地改良区、自治会、老人会、青年会、婦人会、子供会の他、NPO法人といった多様な組織により構成されています。

昨年11月には、伊芸区の農地0.45haに、景観形成に配慮した作付け活動としてコスモスとひまわりの種まきを行い、今年2月にはひまわりとコスモスが農地一面に咲き、地域の人をはじめ、町外からも多くの人が見学に訪れました。

今年は、0.5haの農地にコスモスの作付けを予定しており、来年の2月には、真冬にもかかわらず、コスモスが咲き誇り、たくさんの見学者が訪れることを期待しています。

なお、花が終わった後のコスモスとひまわりは緑肥として利用され、この農地で田植えが始まります。

このような活動が対象地域だけでなく町全体の環境保全活動等の普及啓発につながり、農村環境の質的向上にむけて町全体が一步前進し、活動組織としても農村景観の維持・形成を図ることの重要性を再認識することができました。

今後は農地だけでなく、法面等にも景観形成に配慮した植栽を行い、この活動において全集落が花いっぱいになるよう推進していこうとしています。

(農地資源課農地・水・環境保全対策室企画班)

◇農村コミュニティ活性化の取組

～宮城県東松島市宮戸地区『奥松島体験ネットワーク』～

日本三景の一つ「松島」の東側に位置する奥松島（東松島市宮戸地区）は、水産業を基幹産業とし、牡蠣や海苔の養殖業を中心とした豊富な水産資源と自然景観に恵まれた地域です。

また、レジャー地としての一面を持ち、夏期には海水浴場と民宿業が活気付く場所でもあります。

奥松島体験ネットワークは、平成15年に地元の民宿経営者等で作るブルー・ツーリズムの受け入れ組織として、設立されました。

本ネットワークでは、漁業体験を中心とした全27種の体験メニューを整備し、宿泊客や県外からの修学旅行生を中心に、奥松島の農漁業と観光資源を提供してきました。

現在、宮城県全域で、大型観光キャンペーン「美味し国伊達な旅 ー仙台・宮城デスティネーションキャンペーンー」が大好評の中、開催されています（12月31日まで）。

この大型キャンペーンに向けて、平成19年度には、奥松島へ訪れる人に対し安全、安心で魅力ある漁業体験等を提供するため、(財)都市農山漁村交流活

性化機構（略称「まちむら交流きこう」）が実施するグリーン・ツーリズムインストラクター育成スクールを活動拠点である奥松島で開催し、体験指導者の意識の醸成を図る等、受け入れ体制の強化を図りました。

さらに今年度は、県内外からの観光客に対する情報提供や体験コースの充実、旅行会社等の他業種との連携を図ることで、奥松島へ訪れる観光客を増やし、地域の活性化を目指そうとしています。

ぜひ皆さんも奥松島へ訪れてみてはいかがでしょうか。

活動の詳細はこちらのHPからご覧下さい。

<http://www.okumatsushima-kanko.jp/taiken/index.html>

「美味し国伊達な旅 ー仙台・宮城デスティネーションキャンペーンー」の詳細は、こちらからご覧下さい。

<http://www.sendaimiyagidc.jp/>

(都市農村交流課定住促進班)

■ 地域の実態に応じた多様な取組

◇泥炭農地環境の保全から農業農村の振興と地域環境の保全を考える

～北海道『NPO法人篠津泥炭農地環境保全の会』～

札幌では、11月4日に例年にくらべて8日遅い初雪がありました。今年も除雪との戦いの冬がやってきました。

今年北海道では、北海道洞爺湖サミット及び関連する全国規模のイベントが数多く行われ、農業部門でも関係者の協力により「疏水サミット in 北海道2008」が無事開催されました。

今回紹介する「NPO法人篠津泥炭農地環境保全の会」は、札幌市の北東、石狩川下流に広がる篠津地域の泥炭農地環境の保全を図るとともに、泥炭農地

開発の歴史を後生に残すことにより農業農村の振興と豊かな地域環境の保全に寄与することを目的に、泥炭地研究の第一人者である北海道大学名誉教授の梅田安治氏らによって、平成19年7月に設立されました。

この会の活動フィールドは、かつて「篠津原野」と呼ばれ、人も近寄れない泥炭湿地でしたが、先人たちの厳しい自然への挑戦と泥炭農地改良の努力によって現在の農地の基礎が作られ、今では、道内有数の稲作地帯となっています。

現在の活動としては、道内各地から農業者、会社員、自営業、大学の先生、公務員など多様な会員の参加を得て、泥炭農地環境の保全に関する調査・研究

の一環としてワイルドリスの植え付け調査及び湿地環境復元の湛水化試験の実施、泥炭湿地展示資料室の運営や案内冊子の作成、泥炭農地環境の保全に関わる研修会の実施等を行っています。

今後は、ワイルドライスの植え付け面積の拡大や新たにマコモ植え付けによる調査・研究の拡充の他、これまでの活動を着実に継続するとともに、会の取り組みをPRするため広報誌の配布の拡大や小中学生等にもわかりやすい学習冊子の作成等を行おうとしています。

会では、活動に参加・支援してくれる会員を広く募集しています。

(連絡先) 篠津泥炭農地環境保全の会事務局

〒061-0212 北海道石狩郡当別町字金沢 1363-21

TEL 0133-23-1903

注) 泥炭：湿地や浅い沼に生える水生植物やコケ類が枯死・堆積(たいせき)して、ある程度分解し炭化作用を受けたもの。泥炭はわずかな荷重で圧縮するため、泥炭地は地盤として非常に軟弱である。

(北海道開発局農業振興課)

◇農家とお米屋さんが一体となって取り組むむらづくり

～秋田県仙北市『田沢湖牛銘柄確立推進組合(モートピア神代)』～

秋田県仙北市の神代地区は、和牛の有機堆肥を使って栽培したお米「じゃんご米」の産地として知られています。

しかし、一時は牛肉の輸入自由化による和牛飼養頭数の減少で堆肥の確保が困難となり、また、堆肥散布作業が重労働であることから、じゃんご米の作付けが減少する等、じゃんご米の存続に対する危機感が募っていました。

これをなんとかしようと、農家とお米屋さんが立ち上がり、地域の農業や農村の活性化に向けて、共に行動するとの理念のもと、「モートピア神代」を設立しました。

モートピア神代は、地元の農家14名、千葉県や静岡県のお米屋さん10名で構成され、主な活動として、和牛の育成や堆肥の生産と供給、畜産農家の労働負担を軽減させるためのヘルパー制度による支援、生産者と消費者との交流活動等を実施しています。

特に生産者と消費者との交流では、秋田の伝統行事や郷土料理等を活用した交流イベントの開催や県内外の「じゃんご倶楽部」会員に対する稲の生育状況やイベント情報の発信を行っています。

こうした取組が評価され、去る11月23日に開催された農林水産式典において、平成20年度農林水産祭むらづくり部門の内閣総理大臣賞を受賞しました。

モートピア神代の活動概要の詳細は、東北農政局の公式サイトをご覧ください。
<http://www.maff.go.jp/tohoku/press/nouson/nousonsinkou/081016.html>

(東北農政局農村振興課)

■ 報告・お知らせ

- ◇「オーライ！ニッポンにいがたシンポジウム」を開催（11/9）
第6回オーライ！ニッポン大賞の募集（12/5まで）

11月9日（日）、新潟県新潟市において、「オーライ！ニッポンにいがたシンポジウム」が開催されました。シンポジウムでは、平野啓子オーライ！ニッ

ポン会議副代表、近藤基彦農林水産副大臣、神保和男新潟県副知事ご出席のもと、新潟県内外で集落営農やグリーン・ツーリズム等に取り組む実践者の方々を中心に、多くの参加がありました。

シンポジウムの様子やシンポジウム終了後に行われた交流会の様子は、こちらをご参照ください。

<http://www.ohrai.jp/news/jdr028000000wfex.html>

また、現在、第6回オーライ！ニッポン大賞を募集中です。ホームページからのお申し込みも可能ですので、お申し込みを希望される方は、こちらをご参照ください。

<http://www.ohrai.jp/award09/index.html>

お申し込み頂いた中から、オーライ！ニッポン大賞が選定され、平成21年3月11日（水）には、第6回オーライ！ニッポン大賞の表彰式がニッショーホール（東京虎ノ門）にて開催される予定です。

多くの方のご応募をお待ちしております。

(都市農村交流課グリーン・ツーリズム班)

◇「農山漁村の郷土料理百選」選定記念シンポジウムを開催(11/15)

農林水産省では、食文化を通じた地域振興と都市と農山漁村の共生・対流を図る観点から、昨年12月に「農山漁村の郷土料理百選」を選定いたしました。

11月15日(土)に東京ビッグサイト国際会議場において、JA全中(全国農業協同組合中央会)・JA全農(全国農業協同組合連合会)・農林中央金庫及び農村開発企

画委員会主催で「郷土料理百選と日本の食と農」と題した記念シンポジウムが開催されました(農林水産省後援)。

シンポジウムで行われたパネルディスカッションでは、NHK解説委員の合瀬宏毅氏がコーディネーターを務め、パネリストとして、郷土料理百選の選定

委員の中から、テレビ等でお馴染みの食育研究家の服部幸應氏や洋画家の絹谷幸二氏、フードジャーナリストの向笠千恵子氏などが壇上にあがり、活発な議論が繰り広げられました。

この中で、地域に埋もれていた郷土料理が百選の選定を契機に地域興しに活用し始められた事例等の紹介やホテル・旅館の食事に郷土料理を取り入れ、「地産地消」を工夫して欲しい等といった提言が行われました。

また、11月14日～15日に同じ東京ビッグサイト内で開催された「実りのフェスティバル」では、郷土料理百選のパネル展示コーナーが設けられると

ともに、一部都道府県からの協力を得て、百選に選定された郷土料理の試食や購入ができる等、来訪者からの好評を得ました。

詳しくは、次のホームページをご覧ください。

<http://www.rdpc.or.jp/kyoudoryourii100/>

(都市農村交流課活性化企画班)

◇平成20年度「田園自然再生活動コンクール」の各賞が決定しました

「田園自然再生活動コンクール」は、農村地域において、農業生産との調和を図りながら自然環境の保全・再生活動を行う優良事例を表彰するものです。

今年度は、全国のNPO、農業者団体等から70事例の応募があり、この度、進士五十八東京農業大学教授を委員長とする審査委員会による書類審査及び現地調査の結果、農林水産大臣賞（伊尾・小谷たえクラブ：広島県世羅町）、農村振興局長賞（長沢環境保全の会、長沢ふなっ子の会：滋賀県米原市）、環境省自然環境局長賞（新山山野草等保護育成会：長野県伊那市）など7賞が決定されました。

なお、表彰式や表彰団体の活動報告などを行う「田園自然再生セミナー」は、1月16日・17日に東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催されます。

受賞団体の概要などは、次のホームページをご覧ください。
<http://www.maff.go.jp/j/press/nousin/kankyo/081121.html>

（農村環境課生物多様性保全班）

◇【研修生募集中！】地域産業マネージャー育成研修（農林水産省補助事業）

本事業では、農村地域の活性化に取り組みたいと考えている方等を対象に、地域づくり・産業振興に向けて地域をリードし主体的に活動する人材「地域産業マネージャー」の育成を目的とした研修会を開催します。

○中央研修会
（前半）
日時：平成20年11月29日（土）
場所：八重洲ダイビル第2会議室（東京駅八重洲口）
（11月28日（金）17時まで受付中）

○実地研修会
日時：平成20年12月6日（土）～8日（月）
場所：新潟県上越市西部中山間地域 桑取谷

- 実地研修会 日時：平成21年1月14日（水）～16日（金）
場所：新潟県上越市西部中山間地域 桑取谷
- 中央研修会 日時：平成21年1月24日（土）
（後半①） 場所：八重洲ダイビル第2会議室（東京駅八重洲口）
- 中央研修会 日時：平成21年2月14日（土）
（後半②） 場所：八重洲ダイビル第2会議室（東京駅八重洲口）

本研修会へ参加するには、事前申し込みが必要となりますので、参加を希望される方は、お早めにお申し込みください。詳細は、次のホームページをご覧ください。

<http://www.landbrains.co.jp/hitodukuri/chiki/index.html>

問い合わせ先：ランドブレイン株式会社
電話：03-3263-3811（代）

（都市農村交流課定住促進班）

◆◇ 編集後記 ◇◆

今年のプロ野球は、西武ライオンズが日本一になりました。

話はさかのぼりますが、今年のオールスターへの出場選手は、従来からのファン投票及び監督推薦に加えて、選手間投票により決められていたことをご存じでしょうか？

その選手間投票により選出された選手の一人である荒木選手（中日ドラゴンズ）は、オールスターのMVPにも選ばれました。

来年3月には、第2回ワールド・ベースボール・クラシックが開催されますが、日本代表の人選にも、選手間投票が有効なのではないでしょうか。（M）

◆◇ ご意見をお寄せ下さい ◇◆

本メールマガジンに対する皆さまの声を、ご遠慮なくお寄せください。また、皆さまの地域での活動や取組の紹介などもお願いします。皆さまからのご質問・ご意見、地域の活動などの情報につきましては、可能なかぎり回答あるいは紹介させていただきます。

本メールマガジンに関するご質問・ご意見等については、次の農村振興局「ご意見・お問合せ窓口」のサイトから送信をお願いします。その際、様式の「テーマ」欄には“農村振興メルマガ宛”を必ず記載してください。

https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM_NO=12

農村振興メールマガジンのバックナンバーは次のサイトでご覧いただけます。

<http://www.maff.go.jp/nouson/maimagazine/index.html>

■ 編集発行

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局農村政策部農村計画課（担当）増田

TEL:03-3502-6001 FAX:03-3501-9580
